

あおやましめい 青山神明遺跡の発掘調査について

青山神明遺跡は、西春日井郡豊山町大字青山字神明を中心に存在する遺跡で、大規模な発掘調査は令和5年6月から愛知県埋蔵文化財センターにより開始され、今年度までにおよそ40ヶ所(調査区)で行われる予定です。令和6年1月27日、4月13日、9月7日、10月5日、令和7年1月18日、8月2日の6回にわたり地元説明会が開催され、遺跡の具体的な調査成果が公表されています。今回の説明会で主に紹介するのは25M区で、神明公園の南西部にあります。また、現地を見ていただくことはできませんが、24Fb区(25M区南側)と25Q・R区(豊山町道52号線の北側)の調査成果についても、本資料にて紹介いたします。

これまでの青山神明遺跡の発掘調査では縄文時代から江戸時代までの遺構が発見されました。一番古い遺物は縄文時代草創期(約15,000年前)の石器(25A区出土)があります。次いで、弥生時代の土坑(24B区)や方形周溝墓(24Fa区)などが確認されていますが、これまでの調査成果で中心となるものは古墳時代から中世(鎌倉・室町時代)で、多くの調査区で建物跡や溝や井戸が見つっています。古墳時代から奈良時代では竪穴建物跡が、奈良時代から室町時代では掘立柱建物跡などが多く検出されました。江戸時代以降では、大溝や道路状遺構などの遺構が発見されました。

愛知県埋蔵文化財センターが実施する発掘調査区



愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う

青山神明遺跡地元説明会資料

令和7年11月8日

令和7年度の愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う発掘調査は5月からっており、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しています。

今回の説明会では、これまでに発掘調査を終えた調査区のうち、25M区を中心に25Q区と25R区、さらに25M区に隣接する24F区と24G区も含わせてその調査成果を紹介します。主に鎌倉時代から江戸時代の遺構と遺物が確認されました。

表紙写真は江戸時代の溝0279SDの溝底に残された土木具の痕跡です。

25Ma区の調査成果

25M区は調査区を東西に分け、Ma区は西側です。

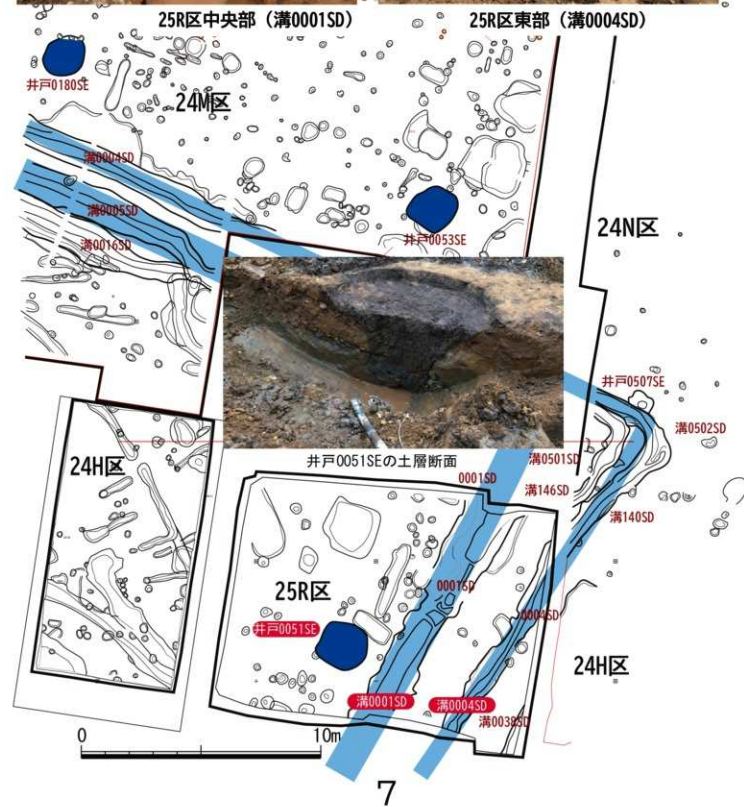
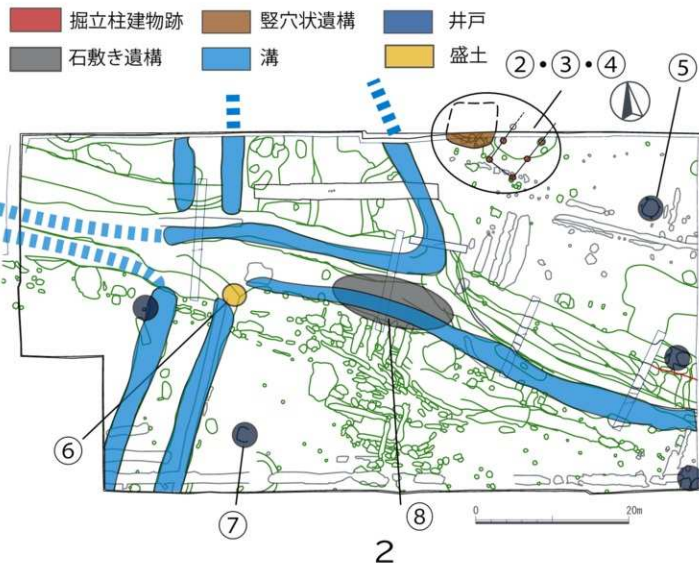
25Ma区では、室町時代の掘立柱建物跡・竪穴状遺構・井戸・溝などが見つかってい
ます。溝は複数見つかり、鎌倉時代から江戸時代までの約10条確認されています。現
在、25Mb区も調査中です。溝の続きが確認されています。

掘立柱建物跡は、調査区の北側から見ついています。一部調査区外にかけて大き
さは1間×2間以上であることが分かりました。

竪穴状遺構は、掘立柱建物跡のすぐ西側で見つかりました。遺構の埋土から焼土や炭
化物があることから火を使用した施設かもしれません。

井戸は今回の調査区では5基見つかりました。平安時代後期～鎌倉時代までの井戸で
す。深さが1m以上の井戸もあります。遺物は山茶碗のかけらなどが見つかりました。

25Ma区



25Q区・25R区の発掘調査成果

25Q区の発掘調査成果(下図を参照)

25Q区は青山神明遺跡の南端中央に位置します。道路拡幅工事に伴う事前事業として令和7年6月から8月に発掘調査しました。

調査の結果、調査区全体が湿地状の地形だったことが判明し、灰色粘土が堆積している状況でした。その中で、室町時代と思われる溝1条と方形土坑1基が発見されました。方形土坑は、掘り上げた土をすぐに埋め立てたような堆積をしており、尾張地方ではよく見つかる土坑墓ではないかと推定されます。

調査区東隣の24J区では骨壺に転用された可能性がある古瀬戸四耳壺が出土しており、付近は中世の墓域であった可能性が高まりました。

25R区の発掘調査成果(次ページ図面を参照)

25R区は青山神明遺跡の南西端部に位置します。25Q区と同様に、道路拡幅工事に伴う事前事業として令和7年6月から8月に発掘調査しました。

調査の結果、室町時代と思われる平行する溝2条と井戸1基が発見されました。これまでに発掘調査した24H区、24M区、24N区の調査成果と合わせていくと、平行する溝は25R区の北東側に西に曲がり25M区にまでつながっていた可能性が高いです。溝で囲まれた内側に井戸や掘立柱建物跡の柱穴などがあるので、屋敷であったと推定されます。



①青山神明遺跡 25Ma区全体



②掘立柱建物跡 検出状況



③掘立柱建物跡 掘削完了状況



④竪穴状遺構 埋土状況



⑤井戸 断面状況



⑥盛土 遺物出土状況



⑦井戸 断面状況



⑧石敷き遺構 礎検出状況



方形土坑0002SKの土層断面

溝0004SDの掘削状況

方形土坑0002SK

溝0004SD

溝0009SD

0 10m

青山神明遺跡25Ma区と周辺の調査成果



①24Ga区 掘立柱建物跡



24A区

25Ma区

24Gb区

24Fa区

24Fb区

25Mb区



0 20m



②24Gb区 掘立柱建物跡に伴う溝



③24Fb区 礫を含む土坑墓



④24Fb区 遺物を含む土坑墓

25Ma区の溝の底の一部で石敷き遺構が見つかりました。石(礫)が人為的に敷かれており、溝に沿った道を作る際に地盤がへこまないように敷いたと考えています。礫と一緒に鎌倉時代の山茶碗が3点見つかりました。

24G区からは、掘立柱建物跡と溝が見つかっています。掘立柱建物跡は3間×4間の大きさです。その東側には、溝が2条南北方向に延びています。今回の調査で溝が西に曲がるのが分かり、建物を囲うように延びている可能性があります。

青山神明遺跡の土坑墓

青山神明遺跡の24Fb区では土坑墓が複数見つかっています。土坑墓は調査区の南側にあります。形は隅丸方形や不定形など様々な形をしています。土坑墓の中には、灰釉陶器や山茶碗などが入っていました。また、灰釉陶器の高台部分には、墨書がありました。

今年度調査区でも土坑が見つかり土坑墓の可能性がります。